



第15回北海道景観行政団体等連携会議
兼
景観行政セミナー

『浜中町の景観まちづくりについて』

本日の流れについて

- 自己紹介
- 浜中町の概要
 - 歴史
 - 地理
 - 景勝地と風景
 - 生き物、特産品
 - 人口
- 浜中町景観計画について
 - 理念と方針
 - 景観特性
 - 景観計画区域
 - 特徴
 - 課題と今後の展開



浜中町公式観光キャラクター

自己紹介

- 名 前 小林 雅博
- 所 属 浜中町役場住民環境課環境政策係
- 出身地 旭川市
- 出身校 北海道旭川北高等学校（2007年3月卒業）
釧路公立大学経済学部経済学科（2011年3月卒業）
- 趣 味 野球（今年社会人野球（二部）で全道大会出場）
- 職 歴 2011年4月～2016年3月 大地みらい信用金庫
2016年4月～ 浜中町役場
役場では、商工観光課3年、住民環境課7年目

浜中町の概要

- 人 口 5,182人（2025年7月末現在・前年比-107人）
※ちなみに牛は約24,000頭！
- 面 積 423.63km²（町勢要覧より）
- 産 業 酪農業、漁業、商工・観光業
- 景勝地 霧多布岬、琵琶瀬展望台など
- 自 然 霧多布湿原
- 生き物 ラッコ、シマフクロウ、イトウなど
- 食べ物 うに、ほっき、毛がに、花咲がに、乳製品など



浜中町の歴史

- 1701年 厚岸場所を割いてキイタツプ場所が開かれる
- 1880年 榊町に戸長役場が設けられる
- 1906年 霧多布ほか1町4村を合わせて浜中村となる
- 1952年 十勝沖地震津波により被災
- 1960年 チリ沖地震津波により被災（この時が人口のピーク）
- 1963年 町制を施行し浜中町となる
- 1993年 霧多布湿原がラムサール条約登録湿地に認定
- 2001年 霧多布湿原が北海道遺産に認定
- 2011年 東日本大震災の津波により被災
- 2021年 霧多布湿原が道立自然公園から国定公園になる
- 2024年 景観行政団体へ移行

十勝沖・チリ沖地震の様子

十勝沖地震

チリ沖地震





えとびりか村

霧多布東1条

霧多布東2条

寿司ひらの

荒川菓子司

民宿岬

浜中町きりたんぼ岬まつり会場

浜中町

浜中町ふれあい交流保養センター

湯沸沼

湯沸浜

湯沸港

霧多布西3条

浜中町役場

湯沸

霧多布西2条

湯沸下海岸

霧多布西4条

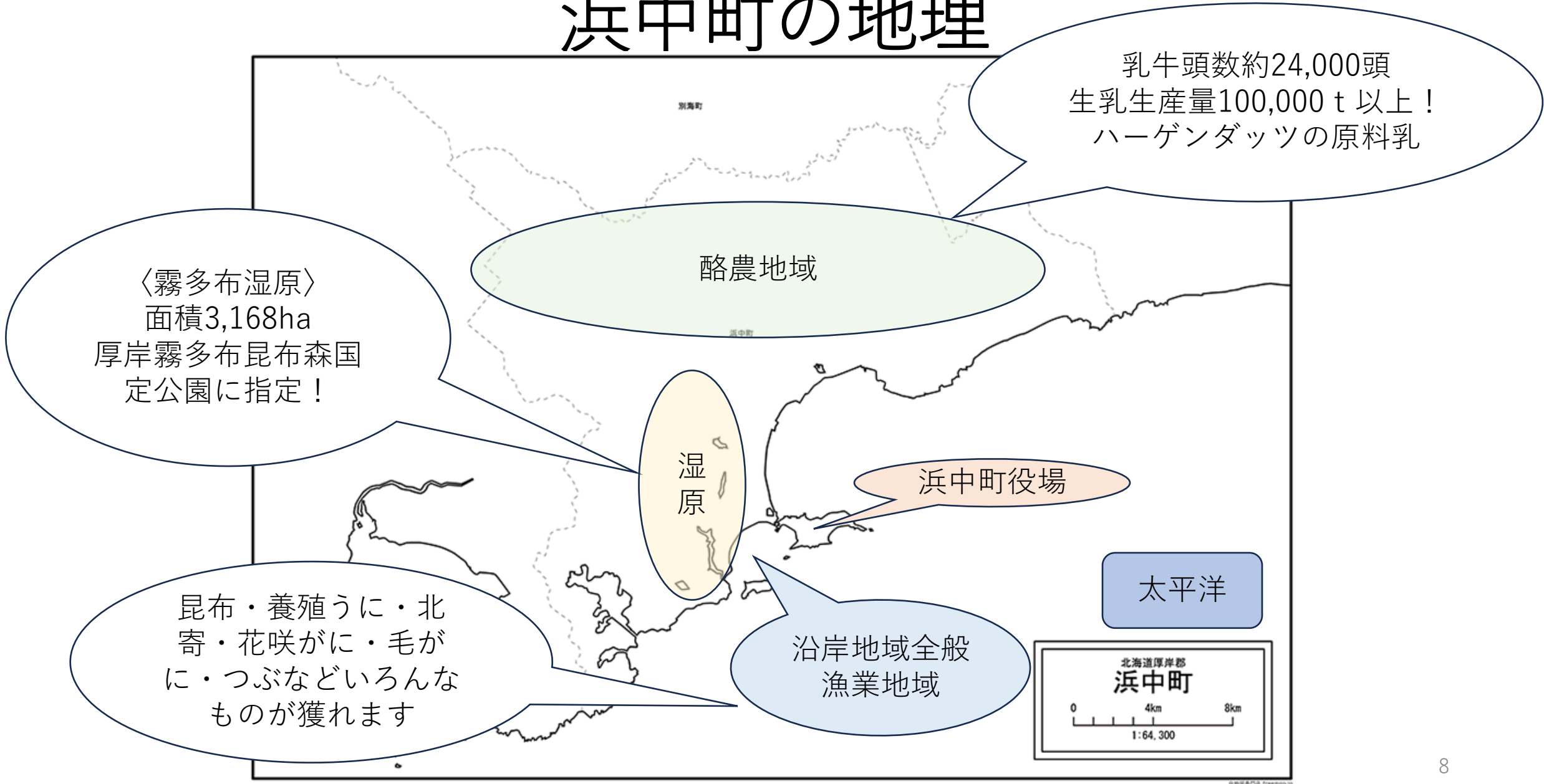
小松牛乳店 / (有)小松牧場

湯沸西岬

霧多布共同墓地

Image © 2025 Airbus

浜中町の地理



景勝地と風景



霧多布湿原



霧多布岬



琵琶瀬木道



浜中桜公園入口



酪農風景



嶮暮帰島（無人島）

生き物・特産品



ラッコ



シマフクロウ



乳製品



昆布



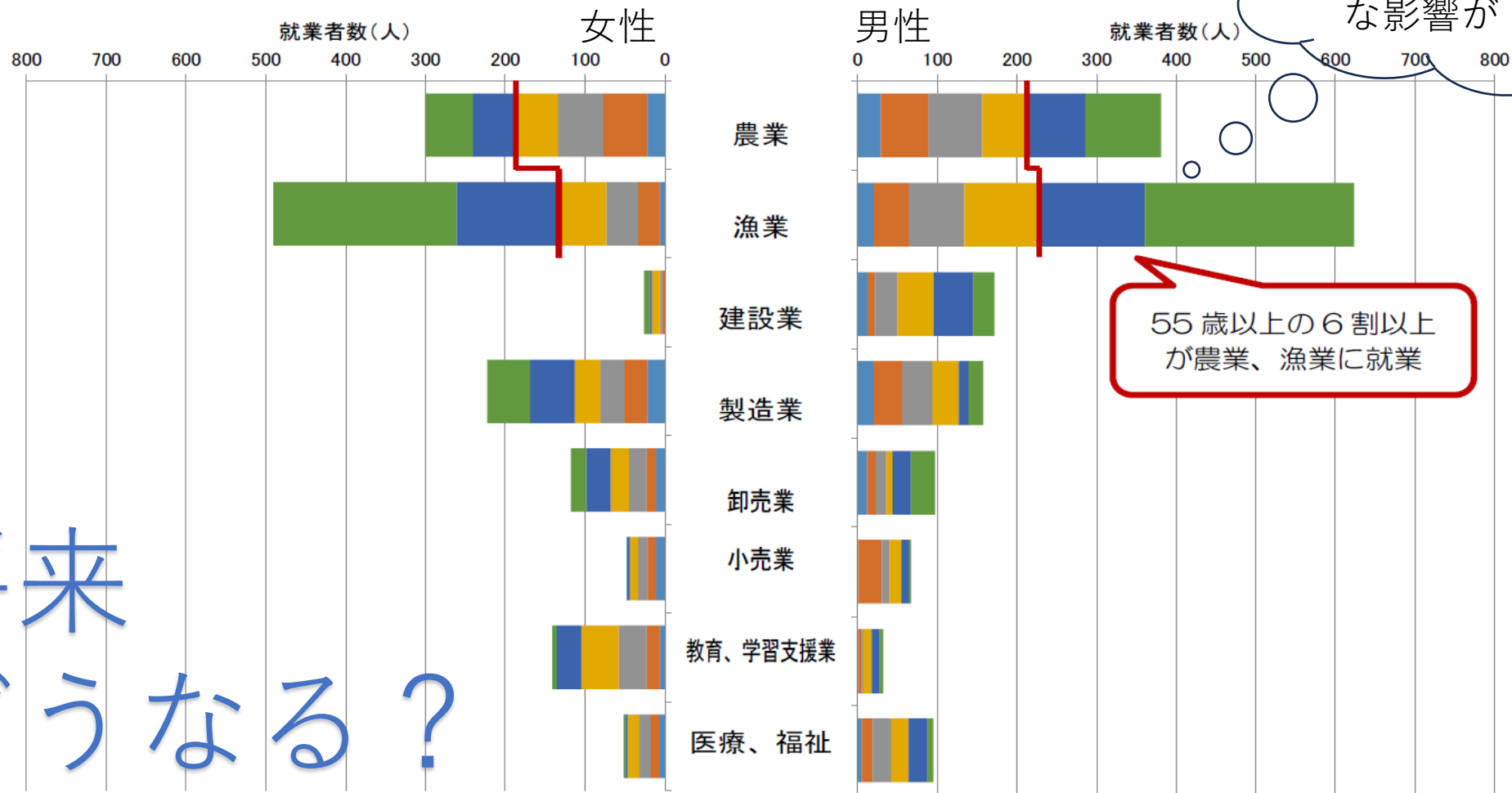
うに



ホエイ豚

人口について (構成)

6割を超える55歳以上の方々がリタイアすると、大きな影響が...

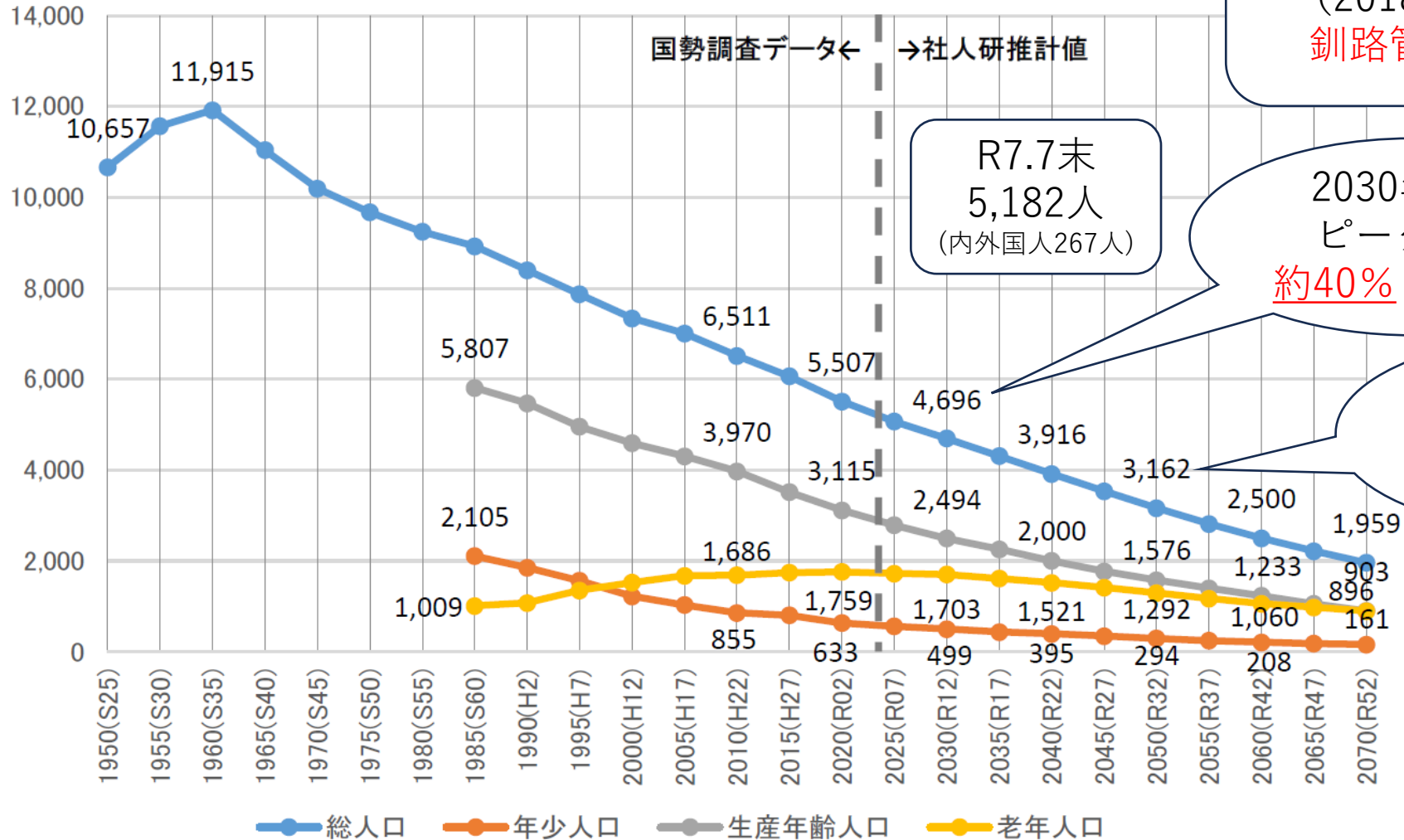


55歳以上の6割以上が農業、漁業に就業

将来
どうなる？

■ 15~24歳 ■ 25~34歳 ■ 35~44歳 ■ 45~54歳 ■ 55~64歳 ■ 65歳以上

人口について (推移)



浜中町の
合計特殊出生率：1.54
(2018年～2022年)
釧路管内ではNO.1!

R7.7末
5,182人
(内外国人267人)

2030年には
ピーク時の
約40%まで減少

2050年には
ピーク時の
約27%まで減少

※2020年までは国勢調査より作成、2025年以降は社人研推計値（令和6年6月）より作成

人口構成と人口減少からわかること

- 現状、**毎年100人**ぐらいうずつ人口が減っている。
（特に若い人が、町外に多く出ていく）
- 現在、第一次産業の従事者のうち**55歳以上が多い**ことから、これらの世代がいなくなっていくと、産業の維持が困難になる。

↓ つまり・・・

浜中町存続の危機！

人口減少、空き家問題、第一次産業衰退、景観悪化などなど

その他、もし土地が売られてしまうと、無秩序な開発行為なども心配される。（環境悪化が懸念される・・・）

H30.8実施のアンケートについて

- 配布部数 2, 3 2 2 部
- 回収部数 6 3 8 部 (回収率 2 7. 5 %)

【主な質問】

- 浜中町の景観に対する誇りや愛着
- 浜中町の景観を損ねているもの
- 景観条例の制定、制定した場合に期待する効果
- 太陽光パネルや風力発電設備が景観を阻害するか
- 浜中町の景観について感じること

H30.8実施のアンケートについて回答

■ 浜中町の景観に対する誇りや愛着

- ①感じている 40%
- ②少し（時々）感じている 45%
- ③感じていない 11%
- ④その他、無回答 4%

■ 浜中町の景観を損ねているもの（複数回答可）

- ①管理されていない空き家や空き店舗 327件
- ②路肩に廃棄されている空き缶やビニール袋などのごみ 250件
- ③放置されている廃船や廃車 233件
- ④設置されている太陽光パネル 143件
- ⑤色やデザインに統一感のない街並み 98件

■ 景観条例の制定、制定した場合に期待する効果（複数回答可）

- ①景観づくりの意識が高まる 179件
- ②景観に配慮した事業が行われる 173件
- ③わからない 147件
- ④特徴ある景観が保たれる
- ⑤支援の仕組みが整えられ、町民による景観づくりが盛んになる

■ 太陽光パネルや風力発電設備が景観を阻害するか

- ①どちらも思う 89件
- ②太陽光パネルは思う 150件
- ③風力発電設備（小型風車は思う） 14件
- ④思わない 196件
- ⑤わからない 100件
- ⑥無回答 89件

■ 浜中町の景観について感じること

- ・無造作に設置された太陽光が景観を損ねている。
- ・自然が多く景観はすばらしい。
- ・ごみが散乱しているのが残念。
- ・商店街の魅力に欠ける。
- ・町の経済活性化の一つとして、再生可能エネルギーの活用を。
- ・廃屋や景観を損なうものは、私有地でも撤去してほしい。
- ・理事者や職員は、景観が財産ということを強く認識してほしい。

その他多数の意見あり

浜中町景観計画の理念と方針

- 基本理念

～世界に誇れる自然景観と豊かな産業景観を次世代へ～

- 基本方針

①世界に誇れる湿原景観の保全

②感動を生む眺望景観づくり

③浜中ブランドの酪農景観づくり

④世界の人を訪れるまちにふさわしい市街地景観づくり

⑤まちぐるみの景観づくり

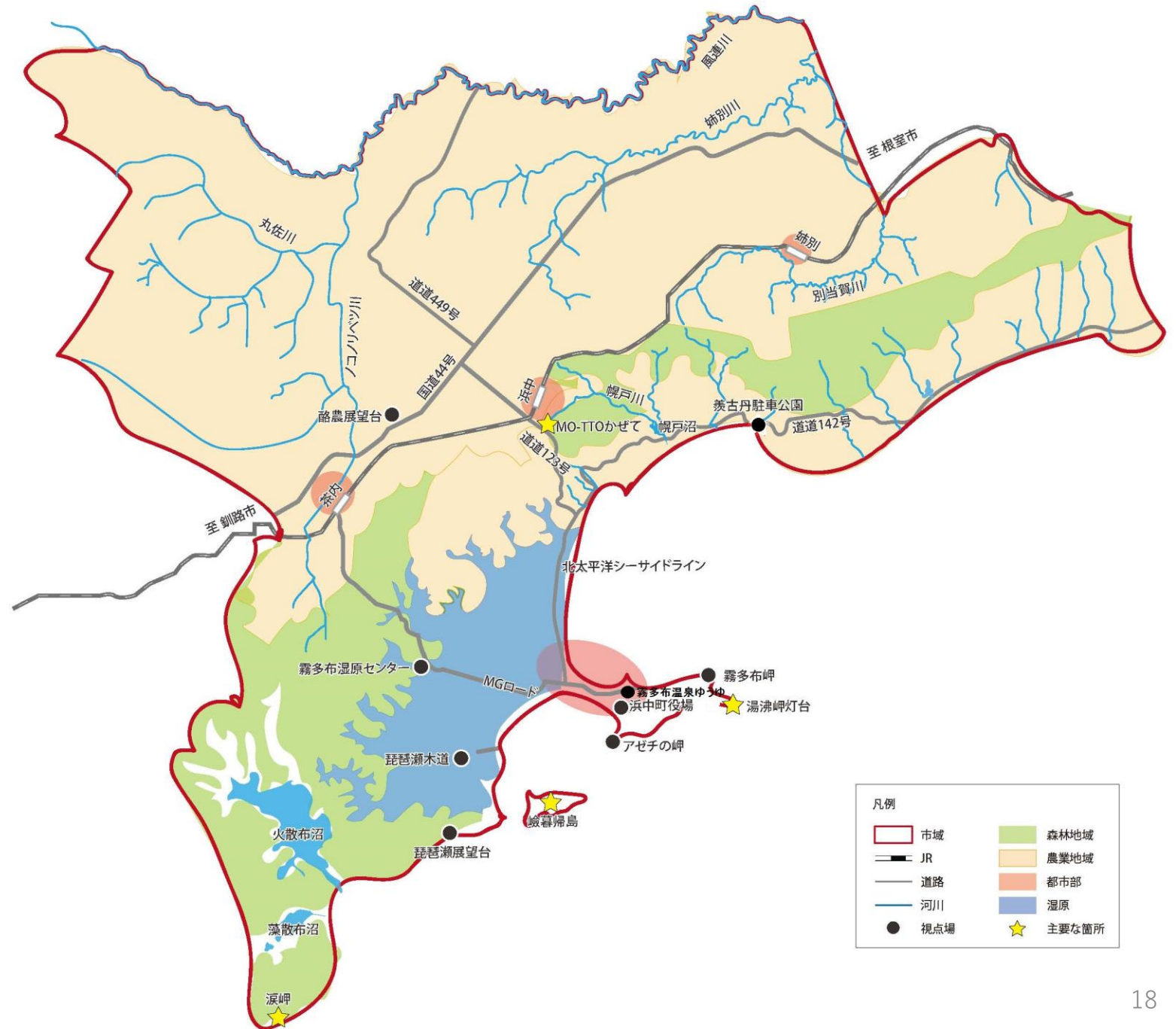
策定時の経過

- 令和4年度
 - 景観計画策定委員会（8/2、1/27）
 - 職員向け勉強会（11/18）
 - 事業者ヒアリング（商工会、霧多布湿原ナショナルトラスト）
- 令和5年度
 - 景観計画策定委員会（6/20、8/29、3/21）
 - 町民景観ミーティング（6/14、9/19）
 - 景観シンポジウム（3/21）
- 令和6年度
 - 庁内での確認作業（4月下旬から5月）
 - 景観計画策定委員会（7/17）
 - パブリックコメント（8/16～9/17）
 - 景観審議会（9/30）

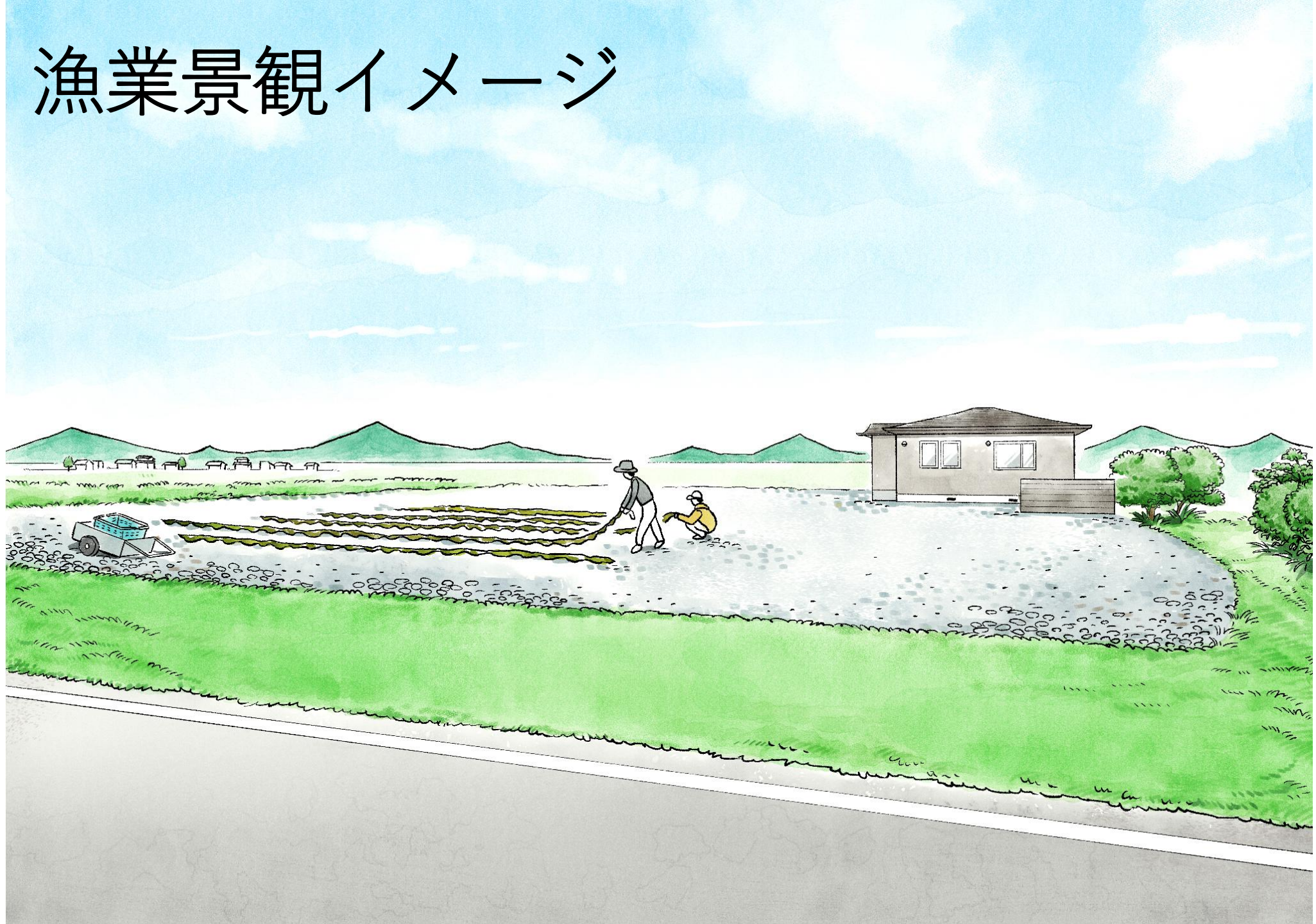
景観特性

景観エリアを検討

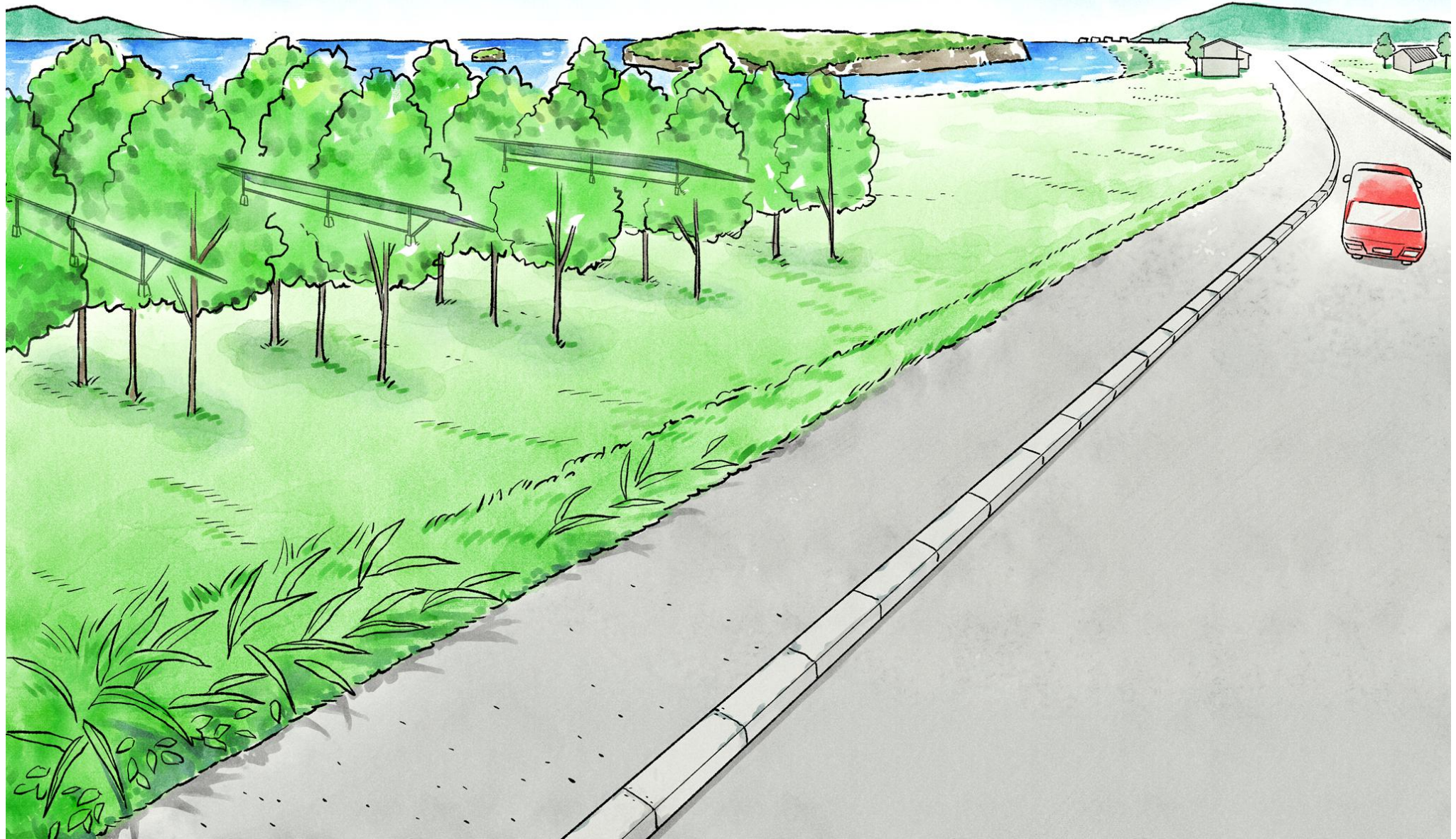
- ①湿原景観エリア
- ②市街地景観エリア
- ③海岸・漁業景観エリア
- ④酪農景観エリア
- ⑤森林景観エリア



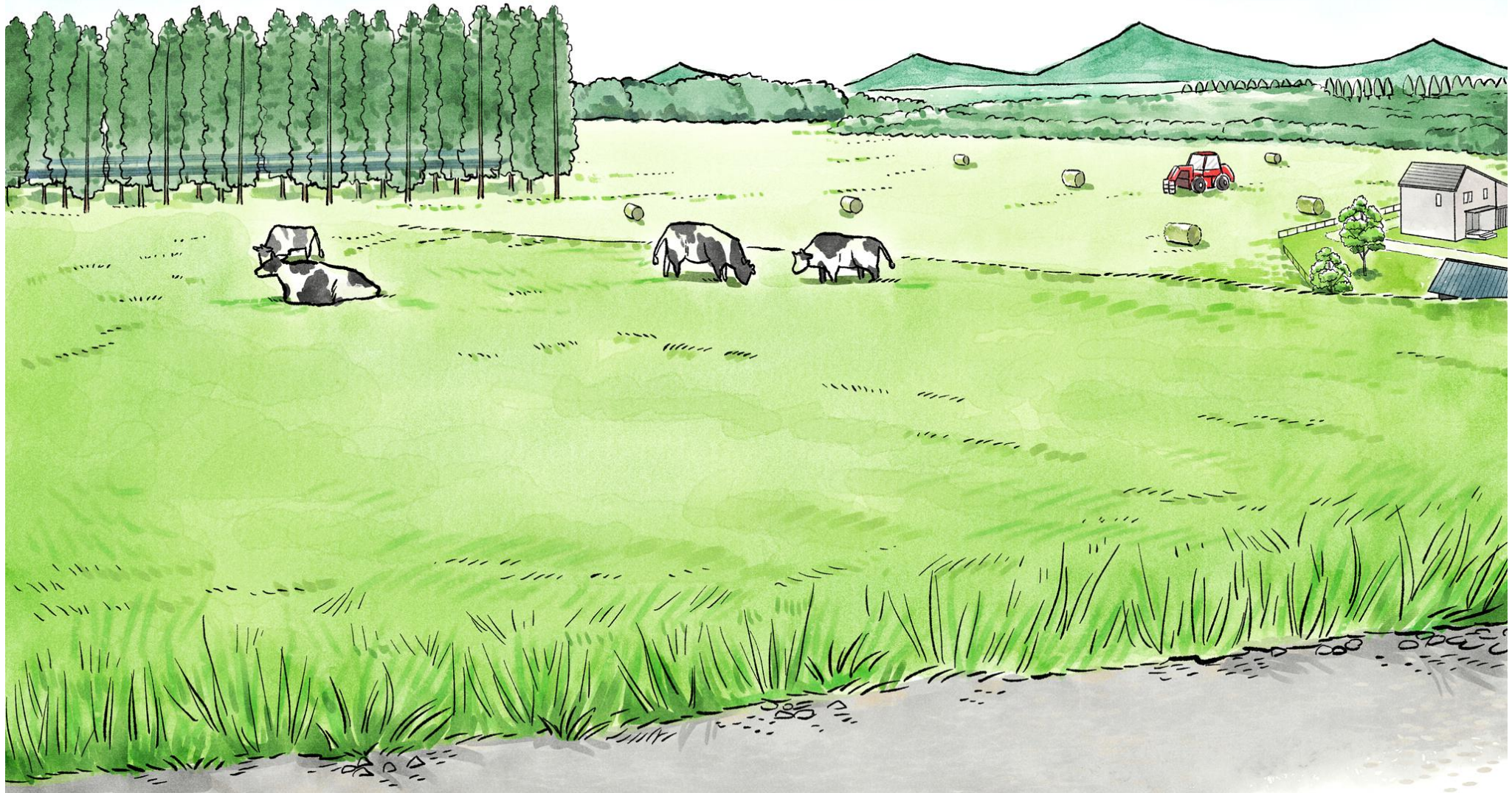
漁業景観イメージ



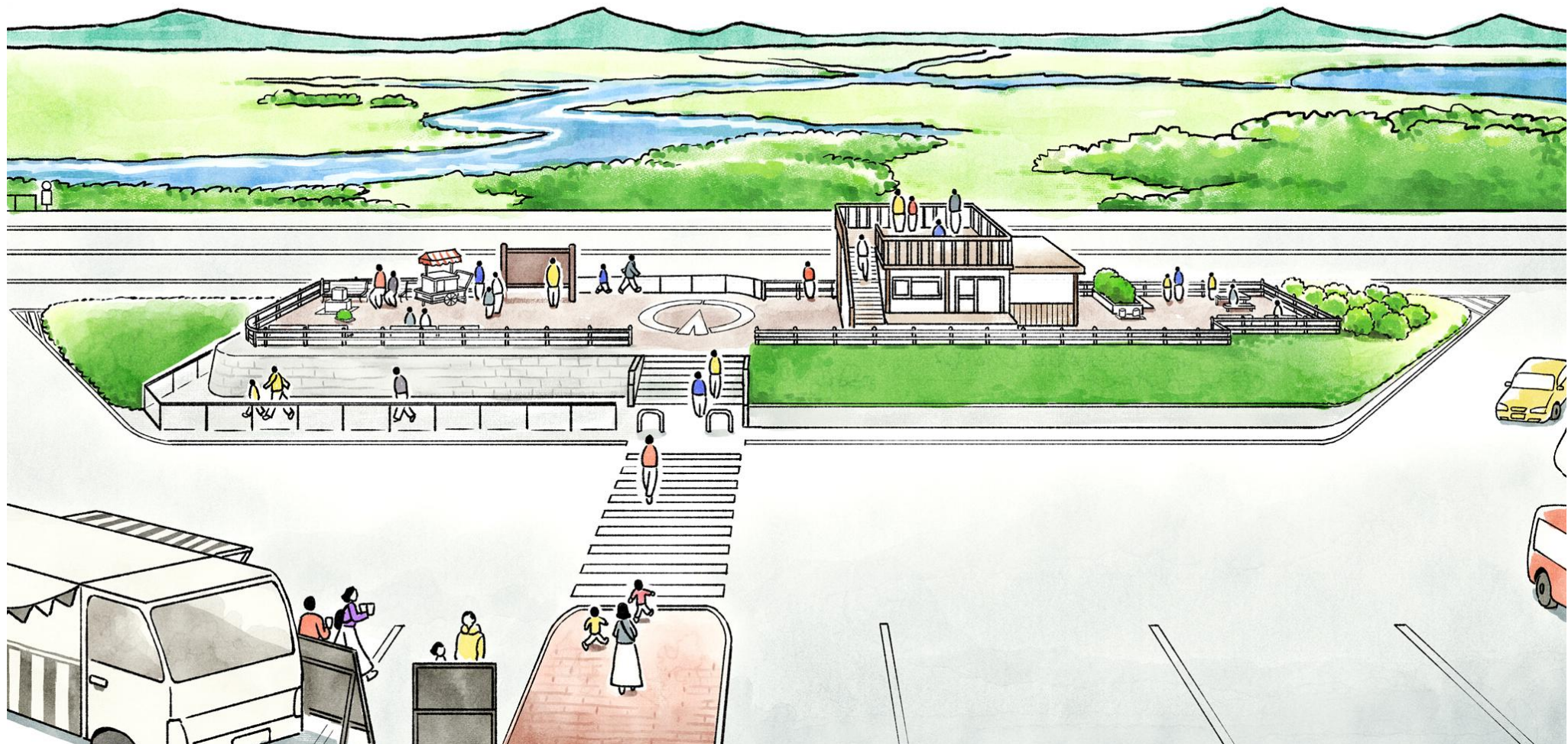
海岸景観イメージ



酪農景観イメージ



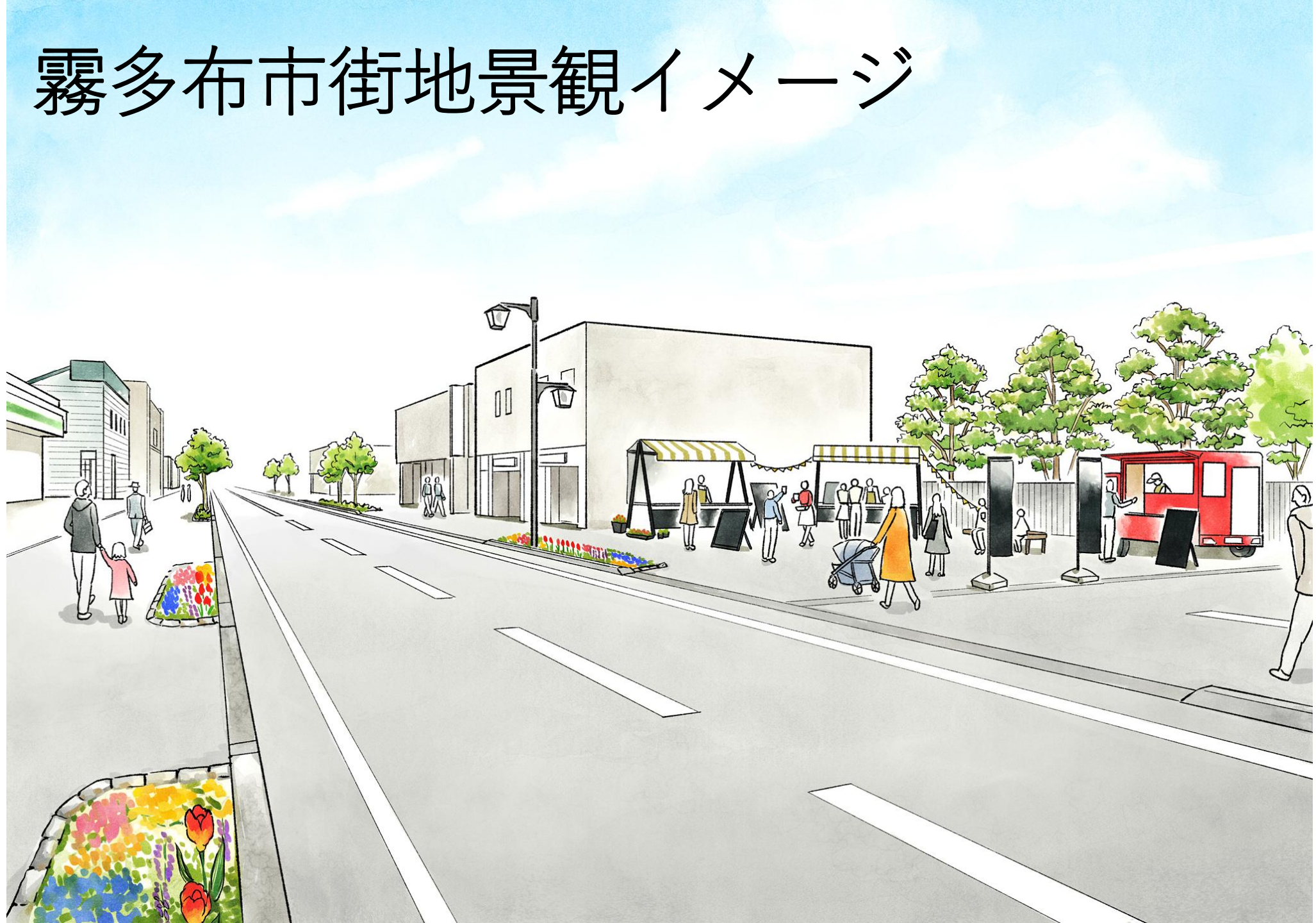
琵琶瀬展望台景観イメージ



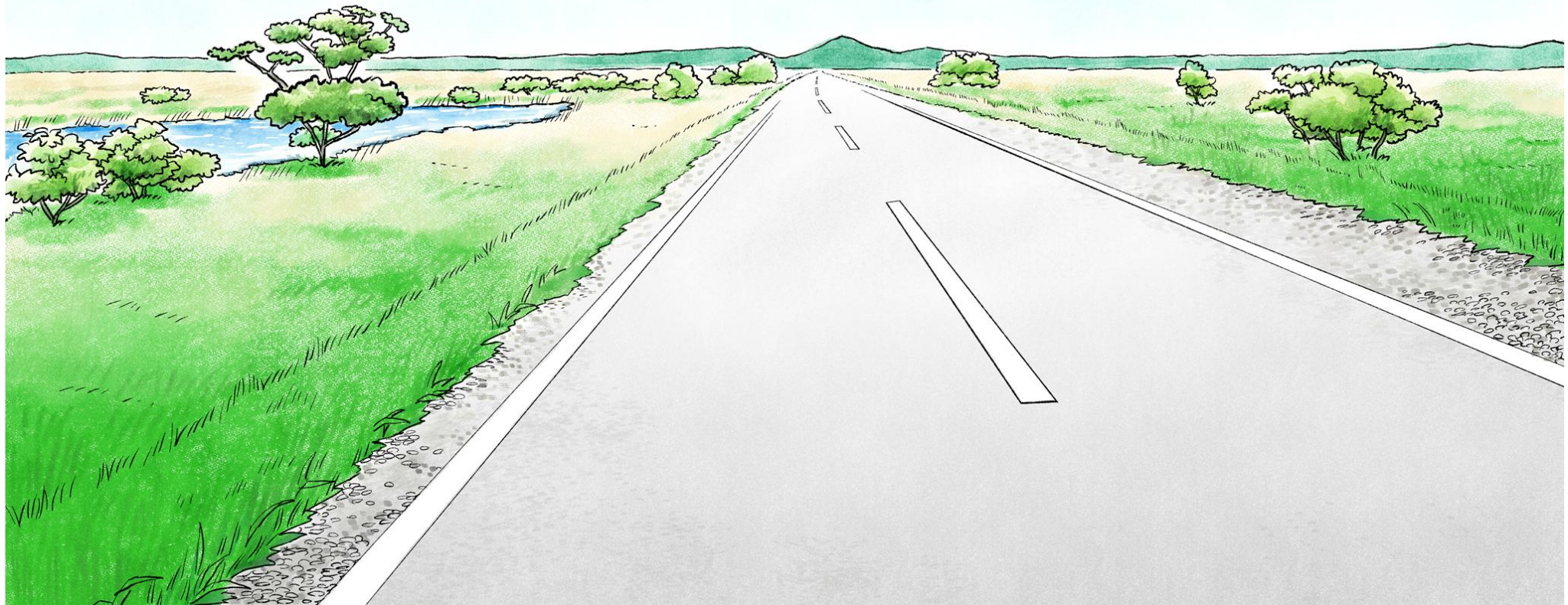
茶内市街地景観イメージ



霧多布市街地景観イメージ



湿原景観イメージ



視点場からの風景



霧多布岬



アゼチの岬



浜中町役場



霧多布湿原センター



羨古丹駐車公園

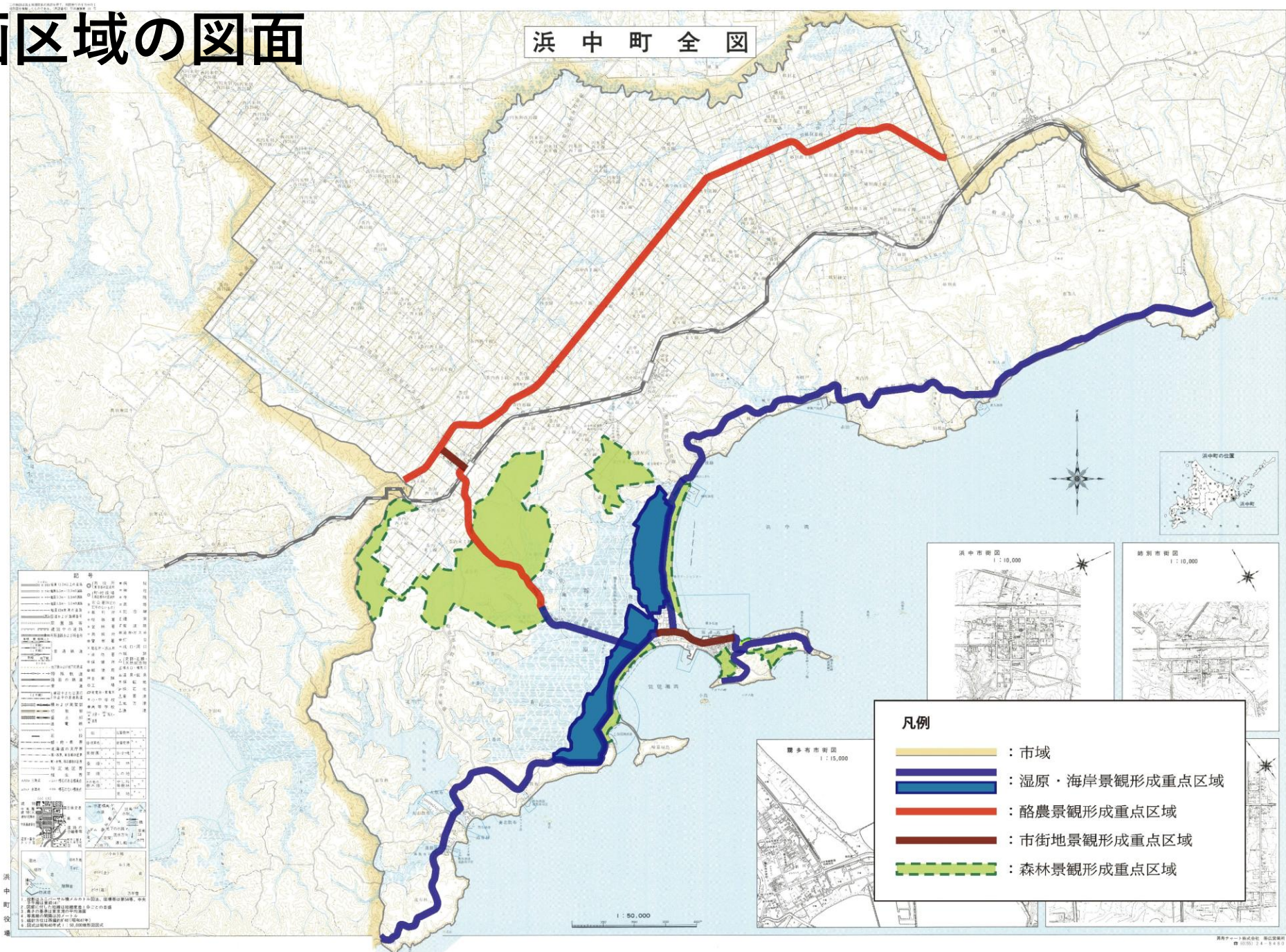


琵琶瀬木道

景観計画区域の設定

- 一般区域
景観形成重点区域を除く町内全域
- 景観形成重点区域
沿道からの景観、湿原周辺の景観保全という点から、
 - ①湿原・海岸景観形成重点区域
 - ②酪農景観形成重点区域
 - ③森林景観形成重点区域
 - ④市街地景観形成重点区域の4つの重点区域を設定。

景觀計画区域の図面



浜中町景観計画の特徴

- 基本は、北海道羊蹄山麓広域景観形成推進区域を参考
- 重点区域は、主要となる道路の**中心から30m**を基準とし、併せて**厚岸霧多布昆布森国定公園のエリア**を参考
- 出力10kw以上の**事業用太陽光パネル**は一般区域、重点区域**すべて届出対象**
- 一部重点区域における電柱新設は、高さ10mを超える場合、届出対象
- 一部重点区域における木竹の伐採については、50㎡を超える皆伐は届出対象
- 景観形成への配慮事項、勧告・協議基準において太陽光発電設備についても記載 など

景観計画策定後の届出について

- 景観計画策定後の届出状況
 - 太陽光発電設備の設置に係る届出 1件
 - ※現在相談を受けているもの 2件（太陽光）
- 届出対象の基準を超えるが適用除外となったもの
 - 林地開発の許可申請によるもの 1件（太陽光）
 - 自然公園法の許可申請によるもの 1件（避難タワー）

景観まちづくりの課題

- 空き家対策

本町は、先ほどの人口構成からもわかるとおり、高齢化が進み、空き家も増えている状況です。実際に、今にも崩れそうな空き家が数件あり、町の景観面、安全面で懸案されています。

- 廃船問題

第一次産業が中心の町であり、漁業者も多いが、一部の漁業者が廃船をそのまま放置しているケースもあり、景観の悪化にもつながっている。人口減少とともに、この問題も増加する可能性あり。

- 太陽光パネル

太陽光パネルが乱立することによって、特に沿岸部では景観への影響が懸念される。

- 人材、ノウハウ不足

所管が環境政策係であり、ゼロカーボン、環境保全などの業務とともに実質一人でやっており、景観計画の運用を始め1年程度しかたっていないが、人材、ノウハウが足りない。

景観行政における今後の展開

- 住民、事業者、町職員の景観意識の定着

昨今、議会では景観という言葉が使われる場面が増えたように感じていますが、地域住民や事業者、また町の職員の意識の醸成は今後進める必要がある。

- 観光、地域振興との連携

視点場としてしている景勝地については、観光係が所管しているところもあり、観光係と協議しながら視点場の整備を検討していきたい。また、景観まちづくりという言葉のとおり、まちづくりの所管とも連携した景観行政の推進をしていく必要がある。

- 地域おこし協力隊を活用した景観まちづくりの検討

地域おこし協力隊を活用した景観まちづくりを何かできないか、外から来た人の目線を取り入れた景観まちづくりの検討。

- プレイスメイキング

自然景観を楽しむ場づくりのみではなく、市街地などでも人の賑わいがにじみでる場づくり、住民同士や住民と観光客、観光客同士が交流することができる場づくりの検討。